BRTに県産水素

日田彦山線の実証運転に提供へ

産学官でつくる県エネルギー産業企業会は7日、JR九州が日田彦山線で実証運転している燃料電池バスに、県内で製造した水素を提供すると発表した。脱炭素化に向けた次世代エネルギーの供給力をPRする。

大林組（東京都）が九重町で生産する水素を使う。地熱を生かし、製造工程で二酸化炭素を排出しない「グリーン水素」と呼ばれる。企業会の委託を受けた江藤産業（大分市）がトラックで重さ約25キロを現地に届ける。燃料電池バスのフル充填（じゅうてん）3回分に当たるという。

実証は11月から日田彦山線に導入したバス高速輸送システム（BRT）でしている。燃料電池バスは添田（福岡県添田町）－日田間を週3往復する。「大分県産水素」を使った最初の運行は17日の予定。

（清松俊朗）

ＪＲ日田彦山線で実証運転する燃料電池バスに、「県産」水素を供給することが決まった＝11月、日田市元町